

令和7年度「町民と議会の懇談会」の報告書をまとめましたので、ご覧ください。

令和7年度 遊佐町議会
「町民と議会の懇談会」
報 告 書

【開催日時・場所】

令和7年11月18日（火）午後6時～7時半

生涯学習センター 2階 大会議室

【目次】

- ・開催概要 P 1 ~
- ・A班報告 13名 P 2 ~
- ・B班報告 10名 P 4 ~
- ・C班報告 11名 P 9 ~
- ・D班報告 12名 P 14 ~
- ・事前質問 6件 P 17 ~
- ・アンケート 36件 P 20 ~

開催概要

開催概要

【班体制】

	A 班	B 班	C 班	D 班
参加者数	13名	10名	11名	12名
進行	遊佐 亮太	那須 正幸	伊原 ひとみ	渋谷 敏
記録	今野 博義	駒井 江美子	菅原 和幸	本間 知広
録音	高橋 冠治	斎藤 弥志夫	佐藤 俊太郎	土門 治明

参加者 46名

(男性 28名・女性 18名)

議員 12名

合計 58名

【内容】

政策提言の4つのテーマを中心に意見交換

1. 子育て・学びの環境充実
2. 実効性ある防災拠点整備と共助体制の構築
3. 農業担い手育成と産業活性化
4. 関係人口を拡げる学習・交流プログラム

【今年度の開催方法について】

昨年度までは3会場に分かれて対面式で開催しておりましたが、今年度は1会場で4班に分かれて車座になっての意見交換という方法で開催いたしました。また、WEBフォームから事前にご意見をいただけるようにしましたので、当日参加できなかった方含め複数のお声もいただきました。終了後にアンケートのご記入をしていただき、その場で書ききれない方にはWEBフォームからの入力もできるようにご用意させていただきました。本報告書ではそれについても取り上げさせていただきました。

令和 7 年度 町民と議会の懇談会報告書

A 班

参 加 人 数	1 3 名
議会側	進 行 遊佐 亮太
	記 録 今野 博義
	録 音 高橋 冠治
話し合い内容（要点筆記）	
<p>= 1. 子育て・学びの環境充実 =</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬のみ乗車可能の駅前一区中学生。高校生の通学時間と重なりエルパ駐車場内バス停に入ることができない。エルパ軒下などで待たせてもらえるようにできないか。 ・遊佐高校支援について、寮母さんが足りない。食事を作ったり夜泊まって生徒の監護をしているが負担をもう少し減らせるといい。県外留学生など人手がほしい行事や雪かきなど声をかけてもらえるとお手伝いができると思う。 ・(県外留学生寮母経験者として) 食事の好き嫌いやコミュニケーションをとることが難しい。夜寝るのも遅く一般的な高校生といえば一般的なのかもしれないが寮母にかかるストレスが大きくて退職した。子ども達にも、カウンセラーがいた方が良い。(悩んで退学してしまう子どももいるため) ・食材の購入は寮母が行っているが、米は年間を通して固定の農家より購入している。寮は公的な意味合いもあるので、食材は一軒からだけではなく公平に購入した方が良いのではないか。(販売量を確保しなければいけないので難しいのでは?の声) ・放課後の子どもの居場所、小学校が一つになったことで児童クラブ・子ども教室とか低学年は帰る時間が早いので遊んでいるが、高学年は来たと思ったら迎えの時間で集団を作つて遊べない。学校が統合したことの弊害。保育園が無くなり昼間の子ども達がいなくなる、遊佐町から高校が無くなるのと同じなのでは。 ・全国では農業や会社で海外からくる外国人も多くなっている。そのような方に住んでもらえるようなシステムとか教育方法とか先進地域を見習つて取り組む必要があるのではないか。 	

= 2. 実効性ある防災拠点整備と共助体制の構築 =
(とくに話題無し)

= 3. 農業担い手育成と産業活性化 =

- ・議会から政策提言を出しているが、今どういう計画でどのように進めていきたいとかは具体的に決まっているのか。

⇒具体的に決まっていないといえばその通り。先月視察に行ってきていたのでこれから報告書を作成するので。町に政策提言出してすぐ来年からというのは難しい。

- ・遊佐高校のデュアル実践に参加する農家がいなくなった。

- ・遊佐高校の地域留学生に種まきなど手伝いに来てもらっている。

⇒種まき時期はどこも人手不足。地域留学生が特定の人に集まるのではなくシステム化してほかの地域に手伝えるようにしては。遊佐高校のアルバイト解禁が課題。

- ・農業はスマート農業に移行してきている。年配では作業のインプットに苦労している(コンピュータ入力)。遊佐高校生など若い人が入ってきてくれるとよい。

= 4. 関係人口を拡げる学習・交流プログラム =

- ・都会で仕事をしていてリタイアした人達で地方、自然の中で暮らしたい人は多い。例えば生活クラブの人達が移住ってきて援農している。農家が忙しいときにはお金を払ってでも手伝いに行くという面白い団体。こういったものを活用してはどうか。

= その他 =

- ・前回懇談会で議員が、「町が暗く飲食店、商店街が寂しい。補助金を出して若者の定着率を上げたいと話が出て議会でも協議していきたい」と回答があったがその後の対応はどうなっているか。

⇒そういう地域もあるとのことで研修をしている。やみくもに進めればよいということではないので。

⇒いろいろな情報もらった中で、検討していくとか、言いっぱなし聞きっぱなしにならないよう、検討した結果を町民に知らせる方法もないといけないのではないか。

令和7年度 町民と議会の懇談会報告書

B班

参 加 人 数	10名
議会側	進行 那須 正幸
	記録 駒井 江美子
	録音 斎藤 弥志夫
話し合い内容（要点筆記）	
<p>= 1. 子育て・学びの環境充実 =</p> <p>【子ども達の居場所】</p> <p>○子ども達が選択できるような居場所づくりに力を入れてほしいという意見が多数あった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達（小中高）が家以外で過ごせる放課後の居場所があるといい。酒田市は、駅前にカフェや図書館があるが、遊佐町にはあまりない。家に居るしか選択肢がない。 ・居場所として遊佐町の図書館は、酒田市とは違い図書館に特化しているのが強み。少年議会で話題になったが Wi-fi の利用などは昔のままなので、PC の電源利用なども含め見直しをして居場所として機能すればいいと思う。エルパは、居場所になっているのかは疑問。 ・早く学童の整備をしてほしい。低学年は、学童で過ごし集団で遊ぶ機会は重要と思うが、高学年は、自分で選択していけるような場所が各地区にあるといい。地区ごとの特長も必要だが、最低限共通の選択肢を整えられるとなお良い。 ・子どもがいない世帯には、どのぐらいの子どもが学童を利用して、どのぐらい足りないかなどの情報が入ってこないので、情報を流してほしい。 <p>【遊佐高校支援】</p> <p>○遊佐高校支援について、予算面、支援制度内容で多くの意見があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提言書 1 – 2、通学費など切れ目のない支援を求めているとある。高校生の支援は、これまで遊佐高校への支援が主だった。町外へ通う高校生への支援補助制度をどのようなものとして考えているのか。 ⇒町外へ通う高校生への支援は、2つの高校は送迎が無料。電車で通う子ども達の定期代や、地元に残る子ども達の車の免許取得支援など、公平性を考えて必要だと考えて 	

いる。

- ・遊佐高校存続の方法の一つとして地域みらい留学を導入したと思うが、町内の子ども達が町外へ通う場合への支援が希薄に感じる。遊佐高校に入学する生徒と同じくらいの支援をしてほしい。通学に対する支援も必要。遊佐の将来を作っていく子ども達大事にしてほしい。
- ・遊佐高校は県立なのに、なぜ町がここまで支援するのか疑問。居場所づくりなど頑張っているようだが、地元の高校生は近づきにくい印象。高校生より、小中学生への支援に力を入れてほしい。
- ・遊佐高校にお金をかけすぎだと思う。地域みらい留学は、過疎ビジネス、補助金ビジネスの要素があるよう見える。
- ・県外留学生ばかり取り上げられることに違和感を持つ地元の子ども達もいる。
- ・「おでこ BASE」はいい取り組みだと思うが、地域の人達とのコミュニケーションをもっと取るべき。
- ・遊佐高校は必要だと思っている。町から高校がなくなったら子ども達を見る機会が減ると思う。遊佐高校関連の仕事で20代、30代も遊佐にやってきてそのまま移住している人達もいる。お金をかけている、内輪というところはよくわかる。地元の子ども達との関わりはもっと増やしてほしい。遊佐高校への地元進学率を上げることが大切だと思う。
- ・遊佐高校に対する町の予算を聞いてびっくりした。昨年産業課からの出前講座で鳥獣被害の補助金を聞いたら、町の予算は15万円だけだと聞いた。予算のかけ方に不公平感をすごく感じる。上手くお金を使ってほしい。使って悪いというわけではなく、かけてもらいたいところがいつまでもかけてもらえないという状況では、みんな外に行く。

【空き家対策】

- ・空き家は約600軒町内にある。いろいろな想いがあると思うが、そのまま放置するとゴミになってしまふ。活用することで価値が出る。直ぐ売却できなくとも、賃貸から検討してほしい。

= 2. 実効性ある防災拠点整備と共助体制の構築 =

【令和6年7月25日 大雨災害】

○昨年の大雨災害に関して避難所、被害状況、ボランティアについて意見があった。

- ・蕨岡地区の避難場所が水の準備や段ボールベッドやトイレ等の整備が全然できていなかった。健常者にも何もないのであれば、障がいのある子ども達を連れては避難しにくい。障がいがある方に必要な備品なども整えてほしい。
- ・どのくらいの方が被災したか、田畠がどのくらい被害があったのか全然情報がわからなかった。具体的に教えてほしい。
- ・大雨災害のボランティア募集方法が現地申し込みや電話だけだった。遊佐町の受け入れ体制に合わせたためだというが、若者がボランティアをしたいと思っても申込しにくい体制だったのではないか。ICT推進室もあるのだから、今の時代に合わせた申込体制になるよう町も力を貸してほしい。
- ・炊き出しなどが町から一度もなかったと聞く。気温が高く食中毒の恐れがあるためできなかつたとのことだが、ボランティアで炊き出しなどしてほしかったと思う。
- ・60～70代の女性も気持ちはあるが、体力勝負のボランティアはできない。もう少しボランティアのメニューも用意してもらえたならありがたい。
- ・我が家は大丈夫だったが、他人ごとではないと危機感を持った。そのような人が多かったのではないか。熱が冷めないうちに次の手を打った方がいいのでは。

【議会の提言】

- ・議会提言書2-1にある通り、町が主体となり自主防災組織を実効性のある活動体制へ強化することを議会は求めていると理解する。自主防災組織は、30年前の阪神淡路大震災のときに必要となったが、人口が密集している地区をモデルに強制的に作らせたもの。遊佐町の現状に合っているのか。集落が小さくなっているのだから、第一次避難場所にまずは逃げろ、命だけ守れというのは集落でできること。まち協などの組織で避難所を運営するような体制づくりをするのが現実的。町の現状を見て町に提言してほしい。

【避難訓練】

- ・地区により避難訓練の参加率に差があるようだ。避難訓練の参加率を町は把握してい

るのか。参加率を高めるための工夫などしているのか。(参加したらお茶をもらえるなど)

= 3 . 農業担い手育成と産業活性化 =

○提言内容についての意見、農家の現状とこれからについての意見があった。

・議会の提言に協力隊制度を利用してとあるが、農家も人間なので合う、合わないがある。農家は年配の方が多く、都会から来る協力隊とコミュニケーションが上手にお互い取れるのか。除隊後に就農できる仕組みとあるが、就農はお金がかかるので3年間では継がせるのは難しいのでは。

・農家は平均年齢70歳以上、5年後は農家をする人は多分半数以下になる。地域計画は作ったが、一番の問題は担い手。田んぼは余っている現状。機械化が進んでいるが、草刈りだけは手作業が必要。中山間地の法面の草刈りは大変なので、荒れていくと思う。やる人も条件のいい田んぼを選ぶ。新規就農は何千万円もかかるし大変。サラリーマンと同じ収入を得るには、広い面積が必要で、その分機械も高くなる。補助はやはり必要。

・農機具を買うための助成金をもっと充実させてほしい。

・春から秋までで半分が草刈り。中山間地の畑を荒らしたくないからそうしている。畑は、がんばっても40～50万円。そこに新しい人を呼びたくても呼べない。

・どうして農業をやる人がいないかは、結局儲からないから。お米が高いというが、本当に高いのか。消費者も食料、水の問題を勉強しておく必要があるので。

・農家に4～5軒手伝いに行っている。今頃から来年の種まきの予約が入るくらい人が足りない。退職者の活用を検討した方がいい。

= 4 . 関係人口を拡げる学習・交流プログラム =

(とくに話題無し)

=その他=

○遊佐町 HP に記載されていた議案書や予算書が削除されたことについて、知る権利の視点から意見があった。

- ・予算書のデータをデジタル技術を駆使してもう少し有効に議員が活用すべき。
- ・開催時間が短いわりにテーマが多い。それぞれ十分に話すことができない。
- ・議員がどう考えているのかをもっと聞きたかった。
- ・1時間半と時間が決まっているなら、説明の時間や議長の話は短めにして時間配分してほしかった。

令和7年度 町民と議会の懇談会報告書

C班

参 加 人 数	11名
議会側	進行 伊原 ひとみ
	記録 菅原 和幸
	録音 佐藤 俊太郎
話し合い内容（要点筆記）	
<p>= 1. 子育て・学びの環境充実 =</p> <ul style="list-style-type: none"> ・50年前の遊佐町には、子育て制度が何もなかったが、なんとか子育てをやってきた。子どもに寂しい思いをさせないよう行事などには常々参加した。集落には空き家が多く、子どもが少なくなっている。元気な年寄りからは、長生きしていただきたい。 ・遊佐高生への助成は、充実し素晴らしいと思うが、酒田市の高校に通学する生徒達には、どのような助成制度があるのかを考えると、あまりないなというのが正直な想いである。私には孫がおり順番に高校に行くことになると思う。単に授業料が無償とか、医療費が無料とか以外にも沢山のお金が掛かると思うので、より充実したやり方、遊佐高生だけに偏らない対応をしていただきたい。町外に通学する高校生も大事な宝物である。 ・町長の公約でもあった、給食の無償化の現状はどうなっているのか。完全に無償化になっているのか聞きたい。 ⇒学校給食は、小学校、中学校も半年分だけ無償化になっている。10月から翌年3月までは無償で、4月から9月まではお金を頂く形になっている。国の方で無償化とする動きもあるので、そうなれば遊佐町も無償化になると思われる。 ・子育ても終わり孫もいないので、地区の子ども達も顔が分からない。集まる機会もなくなっている。小学校や中学校のお便りも興味なく見なしたりする。地区の運動会へも行かなくなり、子ども達を見る機会がなくなっており、自分から積極的に行かなければと思っている。 ・民生児童委員であり、見守り活動や学校との懇談などで話を聞いたりするが、表面には出ないが、いじめやひきこもりがある。そのような子ども達が気軽に通える居場所を充実していただきたいと考える。 ・放課後児童クラブの支援をやっている。資料に、長期休暇に関して待機児童の仕組みを 	

作るとあるが、少し気になったことがある。実際、夏休みで困っているのは、高学年が多いのではないかなと思っている。その辺を把握し、対応できるような施設があればいいと思うので、是非やってほしい。

- ・3年前から、自由の森という子ども達の遊び場をやっている。山林を借りて、子ども達と遊ぶ場所にしている。以前は、学童だけだったが、今は色々な人達が来る。夏休みの学童が困っているということだが、自宅にプールを作り、そこに子ども達を呼んだりしている。学童に入れないとか、どこに聞いても断られてしまうことがあったりする。居場所のない夏休み、そのようなニーズが何となく見えてきている。しかし、私達も仕事があり学童指導員のときのようには見られない事情がある。学童に入れない子ども達の居場所を、もう少し充実させていただきたいと思う。

= 2. 実効性ある防災拠点整備と共助体制の構築 =

- ・私の集落は9軒で、平均年齢も高く高齢化率が進んでいる。当集落での避難訓練では、自分の身は自分で守ろう。それが最低限で余裕があったら人助けに行くと言っている。遊佐町の集落数は多いが、町は、年齢や戸数などどうしても大きい理想的な年齢構成や人口で、防災計画を立てている。そのことを疑問に思っている。
- ・昨年7月の災害では、当集落も勤めている方が多くおり、自分に電話での問い合わせがたくさんあった。その際、危険な所を教え注意して帰るように言った。酒田市から遊佐町に来ることでさえ、危ない状況だった。そのようなことを考えたとき、非常時の避難体制は今の状況でいいのかと感じた。火葬場前の道路は低く水が溜まる。冬には凍ってスリップして車が止まらないこともある。水が溜まったときに歩けるのだろうかと、浸透溝でもいいから整備してほしいと、ある議員の方に話をしたこともある。しかし、手を付けずに終わってしまったことがある。
- ・住まいが砂丘地なので、昨年の7月災害では、どこがどのようになっているのか全然わからなく、また自分で情報を拾いに行くこともできなかった。昔は浜地区に女子消防団があったが今はなくなり、消防団員も少ない。自分の地区の消火栓はみんなで使えるよう、ある程度の知識を持っていた方がいいのではないかと思う。
- ・出席者の皆さんの中には、自主防災組織があるか。私は役場で、防災係長をした経験があり、その時に自主防災組織を作るようお願いした。私の集落には、自主防災組織がある。班編成もしており、毎年2回ほど研修会も行っている。地震や津波の訓練は毎年あるが、消火栓や消火器の使い方等も行っている。消火栓を使うのは非常に危険で、以

前は水道水が濁るからと町は使わせてくれなかったが、今は申請すれば使えると思う。その際は、消防団の指導を受けながら実践してほしい。

- ・私の住む集落は、昨年7月25日のとき月光川が越水した。月光川の改修はされていたが、堤防の一部が切れ、そこから越水した。昼過ぎまで雨が降り続けば、もっと上がったと思う。当時、洪水への認識がされてなく、誰も動いてくれず、私を含めた4人で対応した。情報が共有されてないこと、危険への認識が共有されてないこともあり、そこから先の動きに繋がらなかつたと、今でも思っている。堤防の延伸工事が今後始まるので、状況は変わってくると思うが、避難所である稻川まちセンや町の方に向かうにしても、橋を渡らなければならない。そのような状況の中、自分達の生活を守るにはどうすればいいのか、皆で話し合いたいと思う。
- ・昨年の大雨の際、当集落の区長は不在だった。日中は若い世代が働いており、区長も働いているなど、集落だけでは難しい組織づくりなのかなと思う。実家が床上浸水したが、ボランティアの方々から一生懸命に手伝っていただいた。ボランティア制度についても考えてもらいたい。
- ・私の集落にも、自主防災組織はできていない気がする。どこに誰が住んでいて、年代や体調のことも分からぬし、その方々を助けられるのかという心配があった。水害以降、近所の人達とのコミュニケーションをもっと取るべきと思った。

= 3. 農業担い手育成と産業活性化 =

- ・私の家は兼業農家だったが、委託することで田んぼは継続されている。畠は一部分しか使えていない状況。子ども達が「帰る家がほしい」というので住み続けているが、今後のことは分からない状況。担い手の問題は大きいと思う。
- ・地域おこし協力隊事業で、隊員を農家に組み入れる手があったのかと思った。地域おこし協力隊の方々は、任期が終わった後に中々地域に結びつかないような仕事をしている。町の魅力化発信やITとかに携わっている方が多いが、今後遊佐町に移住し事業を起こせるかというと中々厳しい状況である。若者が色々なことを見直して、農業に目を向けている事例もある。山形県でも、若い人を受け入れることが多いとの報告がされている。是非手を挙げてほしいと思う。
- ・政府は減反政策をしていないとのことだが、作付けは47%しかできず、減反政策は続いている。私は、遊佐町では農業の法人化を進めるべきと考える。土地を法人に出資し

賃労働で稼ぐような役割分担をしていけば、農業の未来は描けるのではないか。砂丘地農業でも労力は必要だ。法人に余力があるときは、そちらで賃労働することもできる。法人で経営してやっていくことで、採算が取れると考える。

- ・後継者がいなくなった家や田んぼは、最終的にはどうなるのか知りたい。法人化については、作るだけでなく加工まで含めるべきではないか。私達も働ける場所がないので、法人で加工までできるようになれば働きにも行けるし、そういうところを試してみたらいいなと思う。
- ・5人のグループでそばを栽培している。意見があったように生産から加工まで行っており、乾燥し粉にして提供するまでを流れとしている。しかし、人ができる部分は限られており機械は必要である、機械を購入するときの補助システムは、こちらから聞かない情報がこない。町から声掛けをしてもらえればありがたい。イノシシの被害対策も一緒に考えていただきたい。
- ・米については、消費者が二の足を踏んでいるとのことで、仲買人とのところで止まっていると聞こえてくる。それに加えて、米から麦への転換の話もあるようだ。法人化の意見があったが、自分もその通りだと思う。
- ・農業の法人化は必要だ。そばの栽培の話があったが「道の駅羽後」に一昨年視察を行った。そこには「そば打ち塾」があった。遊佐町のそばはブランドとなっている。イノシシも加工所を作れば、ジビエ料理として貴重である。弊害になっていることをひとつに纏めることができ、ブランド化に繋がるのではないか。これらが産業になれば、将来の後継にも繋がり、地域おこし協力隊の若い力や知恵での提案もできると思う。
- ・地元の小学生に農業体験をさせ、自分の足元に目を向けさせるべきである。他から連れて来るだけでなく、まずは地元の子ども達に体験をさせるべきである。遊佐地区と稻川地区では小学校での農業体験を行っているが、子ども達に感動を与えることが大事だと思う。地域の方々が地域の先生として、手を差し伸べ教えていただくと助かる。

= 4. 関係人口を拡げる学習・交流プログラム =

- ・2年前に遊佐町で講演された方は、遊佐町には「もったいない、気づかない資源がいっぱいあり、それを活用すれば人をもっと呼び込める」と述べられた。丸池様や牛渡川のように、綺麗なところがいっぱいあっても、誰もそれにお金を払わない。観光はするけど泊まりは温泉のあるところに行ってしまい、素通りされてしまう。遊佐町に移住し

25年近くなる。遊佐町の自然に惹かれ移り住み子育てをしてきた。子ども達の原点がここにあってこそ、広がっていくのかと思う。遊佐町に行きたいと言う人を増やすような取り組みを考え、提案できたらと思う。教育旅行については、初めて聞いた。今は全国どこでも仕事ができる。小さい子どもを連れた若い世代を呼び込み、一定期間滞在してもらい、遊佐町の自然に触れる体験をしてもらえたと思う。

- ・酒田市に移住し、遊佐町で農家をしている方がいると聞いたことがある。遊佐町のように自然のいいところには住みたいけれども、高齢化した人がひとりで住むには大きすぎる家や冬場の厳しさなどを考えると、自分が将来の生活が困難になった時に、その場で続けられるかなどの問題が発生してくると思う。遊佐町にも、集合住宅的なものが、もう少しあってもいいと思う。
- ・関係人口や農業に関しては、土地探しがあると思う。しかし、貸し手と借り手にはギャップがあり、マッチングするのが難しいと思う。自然はあるけど何もないところもある。昨年の災害時には二ノ滝に行くのも大変だった。気軽に行けるよう整備に力を入れていただければと思う。一方、建物の老朽化もあるだろうが、それらを含め長期的に進めていただきたい。
- ・遊佐町の人口が、数年後には人口1万人を切り、更にその後もじり貧になっていく中で、観光資源を利用し関係人口を増やすとしても、地域おこし協力隊などの移住者などを増やそうとしても、自然動態だけで人口減少を食い止めるのは無理だと思う。遊佐町を存続していくためにもビジョンを持ち、人口が減ってもこうなるとの政策なども、議会から町に提言していただきたい。

=その他=

(とくに話題無し)

令和 7 年度 町民と議会の懇談会報告書

D 班

参 加 人 数	1 2 名
議会側	進 行 渋谷 敏
	記 録 本間 知広
	録 音 土門 治明
話し合い内容（要点筆記）	
<p>= 1. 子育て・学びの環境充実=</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校が統合して地域に子ども達が居なくなり、活力がなくなった。地域活性化のために、まちづくりの活動を頑張っているが、活動するにあたり職員の報酬も含めて予算が少ない。地域活性化の拠点として活動していくには予算も含め、まちづくり協議会のあり方を考えてほしい。 ・小野寺町長時代に町民と行政による協働の町づくりを目的に、公民館からまちづくり協議会に移行した。これまで活動してきた中で、予算も含めていろいろな課題があると思うが、行政の対応に反映されていないことも事実である。検証の時期に来ていると考える。 <p>= 2. 実効性ある防災拠点整備と共助体制の構築=</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難行動にしても、災害への備えにしても、危険を知らせるにしても「人が人に伝えること」が大事だと思う。町で防災士協議会が立ち上った。防災士が増えて繋がって情報交換したりすることで、良い波及効果が生まれればいい。提言の内容は良いと思った。 ・自主防災組織があるが、形骸化しているように感じるので、きちんと機能するような組織づくりしていく必要があると思う。 ・集落ごとなど小さい単位での避難場所、施設等に関して避難者の動向に対し、避難所の開設がスムーズにいかないように感じる。マニュアルを作成するべきだと思う。 ・避難所開設にあたり、特にカギ（施設）の管理に関して行政のいわゆる「縦割り」の弊害を感じる。 	

= 3 . 農業担い手育成と産業活性化 =

- ・これまで米価はあまりにも単価が安く、儲からない時代が長く続いた。補助も少ないので、農家をやる人が激減した。そのような状況で、子どもに「継いでくれ」とは言えない。
- ・自分は「地域おこし協力隊」として移住してきた。協力隊の制度そのものはとてもいいと思っている。ただ、農業の担い手としてということで考えると、3年間は補助があるのでいいが、その後が不安である。実現するには、バックアップの仕方を考えるべきだと思う。
- ・これから農業は1人ではやっていけない。何かをやろうとしたら何人か集まって設備投資など行った方が良い。その中に協力隊のような若い方がいればもっと良い。
- ・グループ、法人化などへの支援について議論として考えていることはあるか。
⇒現状は、新規にグループ、法人化を目指す上での支援や就農サポート事業、設備投資、認定農業者制度等を利用して営農に取り組んでいただきたい。
- ・個人で高額な機械を買うことは非常に大変。しかも稼働率が悪く、とても儲からないように感じる。生産費は上がり、農家の経営が厳しいことに変わりはないが、儲かる仕組み作りに取り組む必要があると思う。

= 4 . 関係人口を拡げる学習・交流プログラム =

- ・関係人口の意味を全体でり合わせることが必要。その上で個人的には「地域の熱」があればいいと思う。抽象的だが、人のコミュニティーやアーティスト、前向きなエネルギーが伝われば、リピーターが増えたりすると思う。
- ・有志で「遊ネット」を立ち上げた。ただ町に来てもらうだけではなく、お金を落としてもらえる観光に取り組んでいる。例えば、町で困っていることなどを紹介して、観光で来てくれた方々から体験してもらうようなことができるようにならせて活動している。
- ・定着するためには働く場所、雇用が必要。収入がないと景色がいいだけでは定住できないと思う。

D班報告

=その他=

- ・松くい虫の防除を頑張ってもらいたい。

事前質問

事前質問

懇談会開催前にWEBフォームに事前に入力いただいた質問です。1件の中で複数の内容を記載いただいたものもありましたが、6件の記入をいただいております。記入いただいた内容は以下になります。

※記載内容・文体は原則として記入者の原文のまま掲載しています。

1. 遊佐地区 60代

関係人口の増加させる事は非常に大切だと思います。遊佐町応援団をいかに増やすかと同時に遊佐町に住んでる町民が魅力的に見えるかも必要だと思います。そのような事を具体的にどのようにやって行くかが必要だと思います。

2. 吹浦地区 60代

①吹浦まちづくり協議会の防災事業で、住民の自助・共助を啓発のために避難所開設訓練、個別避難訓練等を実施してきた中で、毎回課題として挙がるのが、夜間早朝でも住民が確実に避難所を開錠できるようにするための鍵の保管場所確保と開錠のルール作りでした。行政が主体となり地区住民と協力者になり得る団体等との話し合いの場を作り調整しないと解決が難しいと考えます。議会としても町への働きかけをお願いしたいです。

②津波からの避難で旧吹浦小に向かう場合、海岸線を避けると海禅寺前の道幅の狭い坂道を上がるしかありません。建物やブロック塀の倒壊があれば通行不可になることもあります。専門家の意見も聞きながら安全に避難できる経路を検討する機会を作るよう、町への働きかけをお願いします。

③防災士育成のために、もっと積極的に町民へのPRする、資格取得の動機づけになるような防災講座の開催を要望します。

3. 蕨岡地区 30代

災害時にペットを連れて避難する住民が増える一方で、においや鳴き声、アレルギーなどのトラブルも過去の災害で報告されています。

明確な方針がないまま同行避難者が各地の避難所に分散すると、対応が統一されず、避難所

事前質問

ごとにトラブルが繰り返されるおそれがあります。

こうした混乱を防ぐため、自治体として「避難所ごとにペット同行避難の可否」を明確に定めるべきです。

学校施設は授業再開や衛生管理、生徒のアレルギー対策の観点から同行避難を禁止し、各地区的「まちづくりセンター」で同行避難者を受け入れる方針が現実的だと思います。

酒田市のように平時から同行避難の対応可否を明示して分離避難体制を整えることが避難者の混乱を防ぎ、人とペット双方の安全を守る道です。

4. (地区、年代記載なし)

■ 学びの環境充実

おでこベースの活用、運営資金の支援が必要

遊佐高生が自由にバイトできるようになったらもっと愛着が湧くかもしれない。

■ 農業の担い手育成

遊佐町の田んぼはお米を育てる意味でも景観を守る意味でも残していきたい。農業従事者が減る中でお米の育て方を知っている人は強いと思う。農業従事者という肩書は荷が重いので目指すのが難しいが、年間を通してお米の作り方を学んでみたいと思う。

遊佐高に入ったらお米の作り方が学べますというのも面白そう。遊佐高校は長期休みや事情がある場合にしかバイトができないが(申請が受理されるまでもかなり時間がかかる)、遊佐町を存続させることにつながる仕事であれば平日のバイトを許可するなどの制度があつてもいいと思う。

■ 関係人口を拡げる学習・交流プログラム

遊佐町にある季節仕事や手仕事の文化を残す取り組みがあるといい。遊佐町の人にとっては当たり前のことが他の地域では当たり前ではないことがある。

春は山菜や筍堀り、夏は梅仕事、秋は芋煮、冬は鮭とば作りや寒だら汁(多分もっとある)など、年間を通して手仕事を学ぶ機会があると季節を楽しむことができるし、そのタイミングを目掛けて遊佐に来てくれるひともいると思う。

自分で作り出すことができる喜びを感じたい。

遊佐に長く暮らしてゐる人から学び、それを学んだ人がコーディネーター代わりとなって外部から来た人と地元の人をつなぐ。

遊佐暮らし体験プログラムを毎シーズンやりつつ、空き家を改修して長期で住める場所を作る。

5. 遊佐地区 30代

遊佐町には、近年関係人口として若者が来訪・関わり始めていますが、町内に短期就労やアルバイトの機会がほとんど無く、「働く場所がないため長期滞在ができない」という声が多くあります。観光業・農業では人手不足が続く一方で、若者は関わりたくても機会が少なく、ミスマッチが生じています。酒田・三川の季節労働ではタイミー、温海温泉ではおてつたびの活用が進んでおり、遊佐町でも同様の仕組みを導入することで、若者の滞在・関与を促し、地域産業の支援にもつながると考えます。

6. 遊佐地区 30代

若手協力隊の増加や、大学生の移住など、遊佐町に関わる若い世代が着実に増えてきていると感じます。町としても、大学生や地域外の若者が継続的に関われる拠点やプログラムをさらに充実させ、学び・挑戦・就労の機会につながる導線を整えていく必要があると思います。地域行事が減少し、町民と外部の若者が交流する機会が少なくなっているため、その受け皿づくりは特に重要だと考えます。

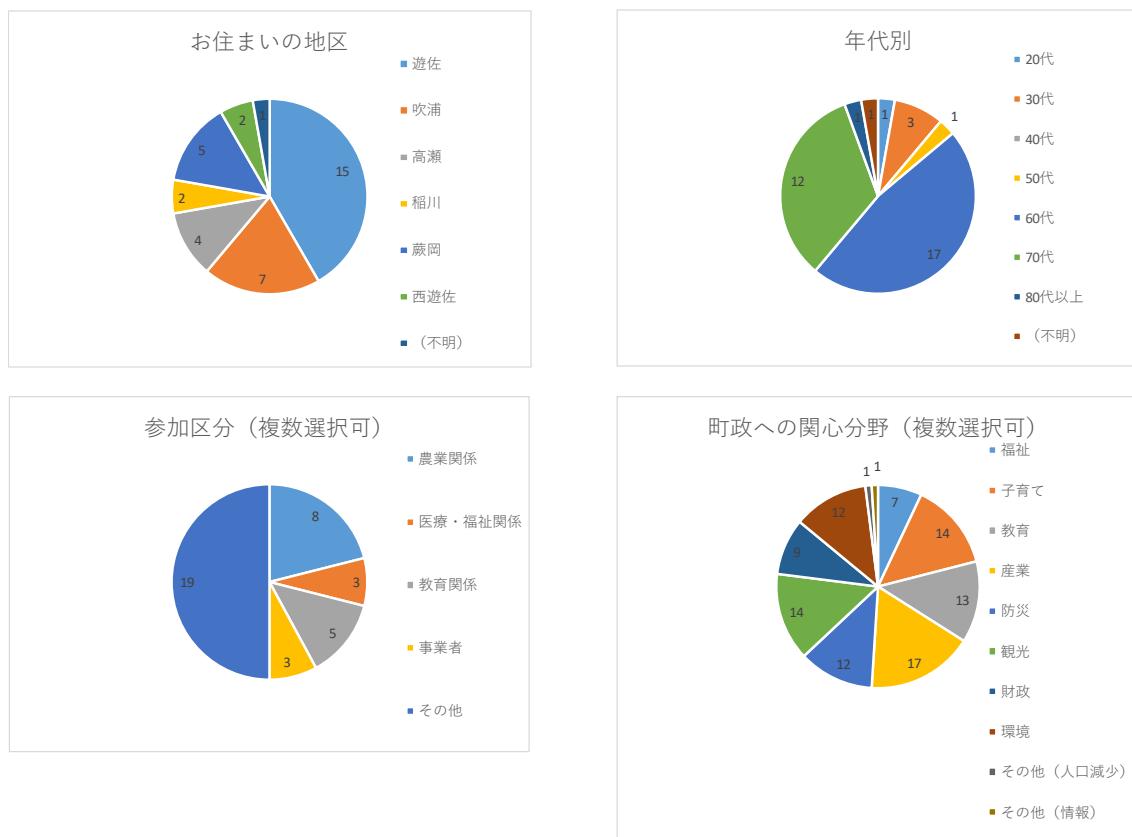
また、関係人口を広げる観点では、海外の方との接点づくりも今後さらに求められると感じています。遊佐町には、世界に誇れる自然・文化資源があり、本来であれば海外の人が気軽に訪れ、地域の人と交流できる魅力を十分に備えています。観光・教育旅行・短期滞在など、海外の方が町と関わる導線づくりや受け入れ拠点の整備を進めるべきだと思います。

アンケート

アンケート

終了後にアンケートの記入にご協力いただきました。同じ内容のアンケートをWEBフォームからも記入できるようにいたしました。その結果、当日の回収は33枚、後日WEBフォームに入力いただいたのが3件、合計で36件の回答をいただきました。記入いただいた内容は以下になります。

※記載内容・文体は原則として記入者の原文のまま掲載しています。



【良かった点／改善点／今後聞きたいテーマ等】

・吹浦地区 60代

遊佐高校支援の金額が5000万円くらいと聞いてびっくり。存続してどの程度の効果があるのか、町民の向ける目がシビアになっていることを知ってほしい。

遊佐図書館大好きですが、スリッパに履き替えるのがとても面倒です。土足で入れるようになれば利用人口が増えると思います。

アンケート

・遊佐地区 60代

町民だけでなく、議員の方々の意見も聞きたかった。参加者がたくさん意見を言えてよかったです。もう少し時間があればトークの交換ができたと思う。

・吹浦地区 70代

私たちの班は、全員発言が可能でよかった。ただ、思いと発言のずれがあり、発言時間が不足。様々な意見を聞けて良かった。

・遊佐地区 60代

顔だけ出せばいいと誘われてきたが、参加者の話を聞き自分の意見を出したが時間がすこし無いように思われた。意見交換をもっと掘り下げて話せたらよかったです。

・吹浦地区 60代

改善として、時間的にテーマが多すぎるので、2つくらいでいいのではないか。

・蕨岡地区 60代

極端な意見・発言が不愉快でした。会の持ち方、方法について参加者に事前に周知してほしかった。

・西遊佐地区 60代

違う意見が、たくさん聞けて良かった。もう少しほかの意見も聞きたかったので、時間の調整を。

・吹浦地区 30代

グループの人数が多かったので、全員が話せるかと思いましたが、皆が発言できるようにふってもらえたので良かった。タイムキープが大変そうだった。

勉強になる話多かったので、グループ内でのフリータイムがあつてもよかったです。

・遊佐地区 70代

町民からの意見を聞くのに時間がかかり、議員の皆さんからの意見を聞く時間がなかつた。

・蕨岡地区 60代

初めての試みではあったが、一方的に説明を聞く形よりは、とても良かった。願わくば、もっと若い世代の方々の声も現場で聞けるように、参加者の幅が広がると良いと思った。

アンケート

・遊佐地区 30代

座席の位置の配置は良かったが、前向きな目標に向かって、町民と議会の皆さんと同じ方向を向いて話し合える会の設定は必要と思う。それぞれ言いたいことを言う会だと、マイナスな雰囲気で終わってしまうと思った。これからもっといい会になると思う。
遊佐高のことを悪く言ってるのって、遊佐町民なんですよね・・・という言葉を思い出しました。

・遊佐地区 20代

他の方の発言を聞いて、関連して話したいことが出るので、テーマごとの意見交換の時間がもう10分ぐらいあってもよかったです。お茶とか菓子の準備やカジュアルな雰囲気づくりも効果的でした。参加者が平等に発言ができるように名札など工夫がされていてよかったです。

・吹浦地区 60代

多くの意見を聞かせていただきありがとうございました。地域での違いなど感じました。
同じように進んでいけるといいですね。

・高瀬地区 60代

テーブルの人数が多くだったので話が聞こえにくかった。会場を分けてもよかったです。
良い雰囲気でいろいろな意見交換ができたので、又行ってほしい。

・西遊佐地区 60代

松くい虫の松はどうするのか、県知事に来てもらい、見てもらってきてください。

・遊佐地区 60代

日、祭日の子供を預かってもらえる所がなく困っている。
日、祭日が忙しい仕事についているので、庄内町のように若い人達が集う町にしてほしい

・吹浦地区 70代

高齢化をどう取り組むか

・吹浦地区 80代

今回の懇談会、大変良かった。次回もぜひ開催を。

・蕨岡地区 70代

今回初めての試みでの懇談会でしたが、時間が足りない。会議が進むにつれ、言いたいこ

アンケート

とが多く思いを言い尽くすには時間を増やしてほしい。

・吹浦地区 70代

大きなテーマなので、1テーブルごとにテーマを分けて、自分が参加したいところで話をした方がよいのでは。

・蕨岡地区 60代

福祉について、障がい者支援について遊佐厚生会の人事が1年ごとに代ったりするのは、いかがなものでしょうか。障害を持つ子供だけでなく親も携わっていて、人からのケアが必要であるにもかかわらず、せっかく慣れてきたところでケアマネージャの人事異動はとても困ります。できれば、ケアマネージャの移動はやめていただきたい。

・遊佐地区 60代

全体的に時間が足りなかった。第5回法定協議会がエルパの舞鶴で開催なので、町民にも興味を持ってもらえるように、買い物ついでに空いているスペースなどでモニターでの公開をお願いします。後でYouTubeで見れるとしても、見れない方もいるので少しでも町民に現状を知らせてはどうでしょうか？

他の町などで、移住希望者や移住者と話をすることがあるが、遊佐の産業と働き口などあるのかと聞かれると困る時がある。産業や企業の誘致を一生懸命に町からは進めていただきたい。

・遊佐地区 20代

いろいろなジャンルの方が参加されていて、興味深いお話を聞いて良かった。

興味のある分野の色分けやテーマになった時の発言の順番の仕組みなど、話しやすかった。吹浦まちセンの方々が、「行政まかせにせず、町民が主体的に動くことが大事」とおっしゃっていたことがとても印象深かったです。

今後、子供連れの方々や中高校生なども参加できると、交通面や、居場所、キャリアについての話し合いができる、町にとっても有意義になるのでは。そのような開催があったら、それも参加してみたい。

・稻川地区 60代

他の地区の方々の話も聞けて良かった。町政座談会もこのようにできると良いと思った。

ご協力いただきありがとうございました。

「町民と議会の懇談会」において、町民の皆様からいただいた議会や行政に対してのご質問及びご要望につきましては、今後の議会活動に反映し、明るい町づくりに努めてまいります。

お問い合わせ

【遊佐町議会事務局】電話:0234-72-5889(直通)/FAX:0234-72-3312

E メール:gikai@town.yuza.lg.jp